

# ビデオ会議の選び方

ユーザーニーズの多様化にともなって、ソリューションも多岐にわたってきた。そこで「このニーズには何を提案すればよいか」という視点で 選択のポイントと代表的なソリューションを紹介する。 文 藤田 健、坪田弘樹(本誌)

ビジュアルコミュニケーションに対するニーズが多様化・高度化する一方で、市場に出回るソリューションの数と種類は増加している。そこで本稿では、主要なニーズに応じた選択のポイントと代表的なソリューションを紹介していこう。

まず、ビデオ会議選びの基本を整理しておこう。ビデオ会議は、専用端末を利用するテレビ会議システムとPCを利用するWeb会議システムに大別される。

テレビ会議は再現性が高く臨場感のある会議ができるため、会議室で腰を据えて利用する場合などに適している。最近ではHD対応機が主流になりつつあり、いっそう臨場感が向上している。短所は専用端末のため高価なことだ。多地点で会議を行うには多地点接続装置(MCU)も必要で、さらにコストが膨らむ。

一方、個人単位や少人数での打ち合わせが多いのであれば、導入ハードルの低いWeb会議が適してい

る。「サーバーインストール型(SI型)」と「ASP/SaaS型」の2つのタイプがあり、後者を選択すれば、ほぼ初期投資なしにビデオ会議を始められる。また、利用場所を選ばない点もメリットだ。PCとインターネット環境さえあれば、どこでも使える。

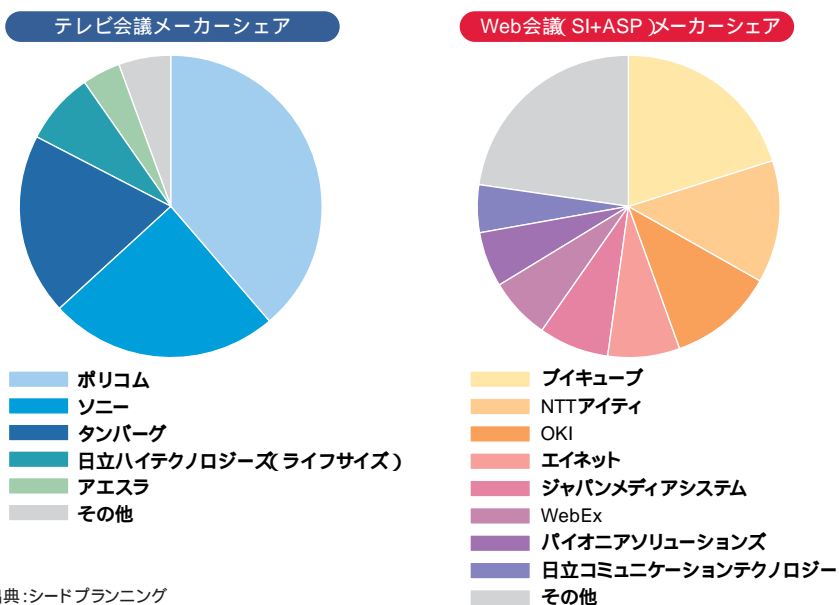
## Web会議は“ランニング”に注意

テレビ会議は、メーカー各社が映像・音声品質の向上に凌ぎを削っている。配線の簡便さやリモコンの操作性も含めて、各社の製品にそれほど差はない状況と言っている。機能が均質化している分、運用するネットワークとの相性、およびサポート体制を重視すると良いだろう。

テレビ会議には、ネットワークの帯域の変化に合わせて映像の解像度を変える仕組みが備わっている。この解像度の段階が細かく仕切られているものほど、その時々通信速度に応じてより鮮明な映像を送れる。ネットワークに対する柔軟性が高いわけだ。どの拠点とも常に十分な帯域を用意できる環境でない限りは、この点にも目を向けたい。

また、海外拠点とつなぐ場合には

図表2-1 テレビ会議とWeb会議(SI型+ASP型)のメーカーシェア(2008年見込み、金額)



出典:シードプランニング